2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	吉村　道孝
最終学歴	学　位	専門分野
慶應義塾大学大学院医学研究科（博士課程）	博士（医学）	臨床心理学

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」にあるように、教養に加えて人間としての人格の成熟を目指す。

（目標）

ヘルスケアの視点から、社会をより良くするための知への探究と社会的弱者の視点など多様性を理解できる人格形成の成熟を目指す。

（方針）

人や社会を理解するためには、基礎的な知識の習得を重視する。また物事の知識だけでなく、歴史や背景、関係する人々の思いなども含めて、何を考え・行動するのかという講義を展開する。

（計画）

これまで発表された研究成果や実験結果を多く扱い、ボトルネックとなっている社会事象に対して積極的にアプローチをおこない、多様な見方・考え方ができるよう進める。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

心理学概論、知覚・認知心理学、臨床心理学概論、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

健康・医療心理学、心理学的支援法、心理的アセスメント、心理学研究法、基礎演習Ⅱ、
専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

多くの講義を対面で実施した。感染症対策によって、インターネットを用いた講義を併用しておこなうこともあった。講義では、座学による受講に加えて、学生からの発言や学生同士のディスカッションの時間を多用し、他者の意見や自身の発言の機会を多く設けた。多くの講義で、毎回レポートや小テストをおこない理解度を確認した。すべての講義において質疑応答の時間を設けた。

○作成した教科書・教材

すべての講義において講義で扱う内容の資料を作成した。資料にはテキスト資料、講義スライドを作成した。講義内容の参考となる資料には、ニュースとなった事件や、身近な話題を取り上げ、写真や動画などの視聴覚教材を多用し理解を促した。

○自己評価

感染症対策に注意を払いながら講義ができた。対面講義となることで、講義中の学生からの反応

を主体的にキャッチすることができ、講義進度と学生の理解度を調和させることができた。資格関連講義が多いため、資料やテクニカルタームの説明が長くなってしまうことがあったのが反省である。学習目標は概ね達成できた。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

メンタルヘルスの予防・回復に資する学術研究および開発

○目標・計画

（目標）

睡眠や生活リズムに関する研究テーマを通して、人類のメンタルヘルスの向上に貢献する。特に、先端技術や解析技術を用いて、これまで明らかにできなかった革新的な研究成果を目指す。一方で、特にCOVID-19など身近な保健衛生に関しても研究データの蓄積をおこなっていく。

（計画）

メンタルヘルスや睡眠・生体リズムに関する複数の研究課題を同時に進行する。他施設の研究者との共同研究も多いため、研究計画、倫理審査、調査・実験、学会発表、論文執筆を遂行する。同時に、適宜競争的資金の申請をおこなう。

○2015年4月から2023年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- 吉村道孝「スマートフォンやPCのバックライトとしての応用と普及．ブルーライトテキストブック.1-5:22-26, 2016.

（学術論文）国内雑誌

- 吉村道孝，三島和夫．行動嗜癖と睡眠障害．医師会雑誌．第149巻第6号；1030, 2020.
- 北沢桃子，吉村道孝，村田まゆ，藤本友香，一言英文，三村將，坪田一男，岸本泰士郎．日本の大学生を対象としたインターネット使用と精神症状との関連.精神神経学雑誌.121巻8号；593-601, 2019.
- 西村英伍，元村祐貴，勝沼るり，吉村道孝，三島和夫，尾方義人．機械学習を用いた動画解析による生体情報の自動追跡技術：瞼裂幅計測に用いた一例．日本生理人類学会誌．24(1);35-45, 2019
- 岸本泰士郎，Liang Kuo-Ching，工藤弘毅，吉村道孝，田澤雄基，吉田和生．情報通信技術や機械学習を活用した精神疾患重症度評価への取り組み．情報管理．60(8)；574-582, 2017.

（学術論文）国際雑誌

- Shiga K, Izumi K, Minato K, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Momota Y, Mimura M, Kishimoto T. Association of Work Environment with Stress and Depression among Japanese Workers. WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation. 2022;72(4):1321-1335.
- Shiga K, Izumi K, Minato K, Sugio T, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Kurokawa S, Momota Y, Sado M, Maeno T, Takebayashi T, Mimura M, Kishimoto T. Subjective well-being and month-long LF/HF ratio among deskworkers. PLoS One. 2021 Sep 7;16(9):e0257062.
- Shiga K, Izumi K, Minato K, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Momota Y, Mimura M, Kishimoto T. Association of Work Environment with Stress and Depression among

Japanese Workers. WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation. 2021

- Makiuchi MR, Warnita T, Inoue N, Shinoda K, Yoshimura M, Kitazawa M, Funaki K, Eguchi Y, Kishimoto T. Speech Paralinguistic Approach for Detecting Dementia Using Gated Convolutional Neural Network. IEICE Translations. 2021 Nov E104-D,11.
- Yamamoto M, Takamiya A, Sawada K, Yoshimura M, Kitazawa M, Liang KC, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Using speech recognition technology to investigate the association between timing-related speech features and depression severity. PLoS One. 2020; 11,15(9):e0238726.
- Kishimoto T, Takamiya A, Liang KC, Funaki K, Fujita T, Kitazawa M, Yoshimura M, Tazawa Y, Horigome T, Eguchi Y, Kikuchi T, Tomita M, Bun S, Murakami J, Sumali B, Warnita T, Kishi A, Yotsui M, Toyoshiba H, Mitsukura Y, Shinoda K, Sakakibara Y, Mimura M; PROMPT collaborators. The project for objective measures using computational psychiatry technology (PROMPT): Rationale, design, and methodology. Contemp Clin Trials Commun. 2020;18,19,100649.
- Sumali B, Mitsukura Y, Liang K.-C, Yoshimura M, Kitazawa M, Takamiya A, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Speech Quality Feature Analysis for Classification of Depression and Dementia Patients. Sensors 2020, 20, 3599.
- Yoshimura M, Kitamura S, Eto N, Hida A, Katsunuma R, Ayabe N, Motomura Nishiwaki Y, Negishi K, Tsubota K, Mishima K. Relationship between Indoor Daytime Light Exposure and Circadian Phase Response under Laboratory Free-Living Conditions. Biological Rhythm Research. 2020.
- Horigome T, Sumali B, Kitazawa M, Yoshimura M, Liang KC, Tazawa Y, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating the severity of depressive symptoms using upper body motion captured by RGB-depth sensors and machine learning in a clinical interview setting: A preliminary study. Compr Psychiatry. 2020; 98:152169.
- Tazawa Y, Liang KC, Yoshimura M, Kitazawa M, Kaise Y, Takamiya A, Kishi A, Horigome T, Mitsukura Y, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating depression with multimodal wristband-type wearable device: screening and assessing patient severity utilizing machine-learning. Heliyon. 2020;4,6(2):e03274.
- Kitazawa M, Yoshimura M, Hitokoto H, Sato-Fujimoto Y, Murata M, Negishi K, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Survey of the Effects of Internet Usage on the Happiness of Japanese University Students. Health and Quality of Life Outcomes. 2019;17;151.
- Tazawa Y, Wada M, Mitsukura Y, Takamiya A, Kitazawa M, Yoshimura M, Mimura M, Kishimoto T. Actigraphy for Evaluation of Mood Disorders: A Systematic Review and Meta-analysis. Journal of Affective Disorders. 2019;15,253,257-269.
- Kitazawa M, Sakamoto C, Yoshimura M, Kawashima M, Inoue S, Mimura M, Tsubota K, Negishi K, Kishimoto T. The Relationship of Dry Eye Disease with Depression and Anxiety: A Naturalistic Observational Study. Translational Vision Science & Technology. 2018;7(6):35.
- Kitazawa M, Yoshimura M, Murata M, Sato-Fujimoto Y, Hitokoto H, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Associations between problematic Internet use and psychiatric symptoms among university students in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2018;72(7):531-539.
- Kitazawa M, Yoshimura M, Liang K, Wada S, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Utilization of Facial Image Analysis Technology for Blink Detection: A Validation Study. Eye and

Contact Lends. 2018;44 Suppl 2:S297-S301.

- Motomura Y, Katsunuma R, Yoshimura M, Mishima K. Two days' sleep debt causes mood decline during resting state via diminished amygdala-prefrontal connectivity. Sleep. 2017;40(10); zxs133.
- Yoshimura M, Kitazawa M, Maeda Y, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Smartphone viewing distance and sleep: an experimental study utilizing motion capture technology. Nat Sci Sleep. 2017;8,9:59-65.
- Yoshimura M, Kitazawa M, Kishimoto T, Mimura M, Tsubota K. A survey of Japanese young adult's postures when using smartphones before sleeping. Mobile Technology in Medicine 2016;5,2,51-53.
- Ayaki M, Hattori A, Maruyama Y, Nakano M, Yoshimura M, Kitazawa M, Negishi K, Tsubota K. Protective effect of blue-light shield eyewear for adults against light pollution from self-luminous devices used at night. Chronobiol Int. 2016;33(1),134-9.

(学会発表)(国内)

- 吉村道孝, 江口洋子.「若年から高齢者までを対象とした睡眠と関連する心理・社会的要因のウェブ調査」. 学術変革領域「生涯学」第2回領域会議, 京都, 2023.3.18.
- 吉村道孝, 越川陽介, 江口洋子, 北沢桃子, 花城清香, 村田まゆ, 志賀希子, 藤田卓仙. 大学生に対する COVID-19 ワクチン接種に関するリスク・コミュニケーション実践がワクチン接種意思に与える影響. 第29回日本未病学会学術総会, 千葉, 2022.11.12-13.
- 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 永田貴子, 藤田卓仙. 新型コロナワクチンに対する理解度と主観的心身状態の関連. 第19回日本うつ学会総会. 大分(ハイブリッド方式開催), 2022.7.14-15.
- 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 永田貴子, 藤田卓仙. COVID-19流行下におけるワクチンに対する信頼度と睡眠の関連. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会. 京都(ハイブリッド方式開催), 2022.6.30-7.1
- 藤田卓仙, 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 新型コロナウイルス感染症に関連する携帯電話関連技術を用いた対策についての全国調査. 日本公衆衛生学会第80回大会. 東京, 2021.12.21.
- 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 藤田卓仙. 新型コロナワクチン接種意思に関連する要因の全国調査. 日本公衆衛生学会第80回大会. 東京, 2021.12.21.
- 吉村道孝, 越川陽介, 江口洋子, 藤田卓仙, 花城清香, 北沢桃子, 村田まゆ, 志賀希子. 大学生に対する新型コロナワクチン接種に関するリスク・コミュニケーション教育の試み. 第1回日本公認心理師学会学術集会. 沖縄, 2021.12.12.
- 吉村道孝, 藤田卓仙, 花城清香, 北沢桃子, 江口洋子, 越川陽介, 村田まゆ. 新型コロナワクチン接種の正しい理解のためのコミュニケーションハンドブック」日本語翻訳版の作成. 第1回日本公認心理師学会学術集会. 沖縄, 2021.12.12.
- 吉村道孝. 志賀希子. 永田貴子. 北沢桃子. 藤田卓仙. コロナ禍における主観的健康観に関する全国調査. 第28回日本未病学会学術総会. 大阪, 2021.11.20.
- 吉村道孝, 北沢桃子, 藤田卓仙. 新型コロナウイルス感染症がソーシャルメディア上の睡眠関連キーワードに与える影響. 日本睡眠学会第46回定期学術集会, 福岡, 2021.9.23-24.
- 志賀希子, 北沢桃子, 藤田卓仙, 吉村道孝. コロナ禍における日本人の幸福感日本心理学会. 第85回日本心理学会, WEB, 2021.9.1-9.8.
- 吉村道孝, 北沢桃子. 新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年とコロナ禍の2020年のソーシャルメディア上の希死念慮に関する話題頻度について. 第18回日本うつ病学会, 神奈川, 2021.7.8-

10.

- 志賀希子，泉啓介，湊和修，吉村道孝，北沢桃子，花城清香，前野隆司，佐渡充洋，武林亨，三村將，岸本泰士郎.テレワーク実施頻度とストレス、well-being、抑うつ、パフォーマンスの関連．第94回日本産業衛生学会，長野，2021.5.18-21.
- 志賀希子，吉村道孝，北沢桃子，泉啓介，湊和修，三村將，岸本泰士郎．デスクワーク労働者における職場環境や生活習慣とうつ症状の関連．第17回日本うつ病学会，福岡，2021.1.28-29.
- 越川陽介，吉村道孝，江口洋子，貝瀬有里子，花城清香，村田まゆ，北沢桃子．メンタルヘルス部会における未病の定義と行動指針に関する一考察．第 27 回日本未病学会学術総会， 東京，2020.10.31-11.1.
- 村田まゆ，吉村道孝，北沢桃子，貝瀬有里子，花城清香，市丸佳世，江口洋子，越川陽介．我が国における高齢者の神経心理アセスメントツールの使用頻度と教育課程の調査．第 27 回日本未病学会学術総会，東京，2020.10.31-11.1.
- 志賀希子，泉啓介，湊和修，吉村道孝，北沢桃子，三村將，岸本泰士郎．テレワークの実施の有無とストレス、well-being、抑うつ、パフォーマンスの関連． 第 36 回日本ストレス学会．2020.10.24-25.
- 志賀希子，泉啓介，湊和修，吉村道孝，北沢桃子，三村將，岸本泰士郎．デスクワーク労働者のパフォーマンスに関連する要因の検討．日本心理学会第84回大会，東京（web開催），2020.9.8-11.2.
- 杉尾樹，泉啓介，湊和修，志賀希子，花城清香，Kelley Cortright，宇佐美陽子，北沢桃子，吉村道孝，藤田卓仙，前野隆司，佐渡充洋， 武林亨，三村將，岸本泰士郎．生体信号データによるストレス･well-being の機械学習予測モデルの構築の検討．第93回日本産業衛生学会,北海道(web開催），2020.6.12-28.
- 泉啓介，志賀希子，湊和修，花城清香，Kelley Cortright，宇佐美陽子，北沢桃子，吉村道孝，杉尾樹，藤田卓仙，前野隆司，佐渡充洋，武林亨，三村將，岸本泰士郎．デスクワークに従事している労働者のストレス・well-beingと生体sensing dataとの関連．第93回日本産業衛生学会,北海道（web開催），2020.6.12-28.
- 志賀希子，泉啓介，湊和修，花城清香，Kelley Cortright，宇佐美陽子，北沢桃子，吉村道孝，杉尾樹，藤田卓仙，前野隆司，佐渡充洋，武林亨，三村將，岸本泰士郎．デスクワークに従事している労働者のストレス・well-beingと職場環境の関連．第93回日本産業衛生学会,北海道（web開催），2020.6.12-28.
- 吉村道孝，北沢桃子，Brian Sumali，Kuo-Ching Liang，岸本泰士郎．スマートフォンを用いた睡眠計測の妥当性評価．第26回日本未病システム学会学術総会，名古屋，2019.11.16-17.
- 志賀希子，泉啓介，湊和修，花城清香，Kelley Cortright，北沢桃子，藤田卓仙，吉村道孝，杉尾樹， 三村將， 岸本泰士郎． デスクワークが多い業務に従事している労働者のストレス・well-being と心理社会的な職場環境に関する考察． 第 35 回日本ストレス学会学術総会， 福岡，2019.10.26-27.
- 鶴嶋史哉，菊地俊暁，吉村道孝，Liang Kuo-Ching，北沢桃子，三村將，岸本泰士郎．深層学習を用いた表情データによるうつ症状の重症度判定の試み． 第 16 回日本うつ病学会総会， 徳島，2019.7.5-6.
- 北沢桃子，山田千晶，吉村道孝，川島素子，井上佐智子，三村將，坪田一男，根岸一乃．岸本泰士郎.ドライアイ患者におけるうつ症状および不安症状に関する観察研究．第16回日本うつ病学会総会，徳島，2019.7.5-6.

- 吉村道孝、北沢桃子、Brian Sumali、田澤雄基、貝瀬有里子、三村將、岸本泰士郎. ウエアラブル活動量計を用いた睡眠リズムとうつ症状との関連. 第16回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- 吉村道孝, 北沢桃子, 江口洋子, 三村將, 岸本泰士郎. 高齢者における睡眠―覚醒リズム(The Sleep Regularity Index : SRI)と睡眠、精神症状及び認知機能との関係. 日本睡眠学会第44回定期学術集会, 名古屋, 2019.6.27-28.
- 吉村道孝, 北沢桃子, 岸本泰士郎. ウエアラブル活動量計を用いた睡眠リズムと認知症との関連. 日本生理人類学会第79 回大会, 東京, 2019.6.1-2.
- 北沢桃子, 吉村道孝, Liang Kuo-Ching, 和田智之, 三村將, 坪田一男, 岸本 泰士郎. 寛解状態の気分障害患者および健常者における睡眠に関する考察. 第 25 回日本未病システム学会学術総会, 東京, 2018.10.27-28.
- 吉村道孝, 元村祐貴, 勝沼るり, 北沢桃子, 北村真吾, 三村將, 坪田一男, 岸本泰士郎, 三島和夫. 短時間睡眠における顔部変化の客観的検出. 第43回日本睡眠学会, 札幌, 2018.7.11-13.
- 元村祐貴, 勝沼るり, 北村真吾, 綾部直子, 吉村道孝, 肥田昌子, 三島和夫. 睡眠習慣と安静時脳活動の関連：ASL-fMRI を用いた検討. 第77回生理人類学会, 福岡, 2018.6.16-17.
- 西村 英伍, 元村 祐貴, 尾方 義人, 勝沼 るり, 吉村道孝, 三島 和夫. 機械学習を用いた動画からの生体情報抽出技術の開発：上眼瞼の動き検出に用いた一例. 第 77 回生理人類学会, 福岡, 2018.6.16-17.
- 吉村道孝, 元村祐貴, 勝沼るり, 北村真吾, 北沢桃子, 岸本泰士郎, 三村將, 坪田一男, 三島和夫. 画像解析を用いた短時間睡眠による表情変化検出の試み. 第77回生理人類学会, 福岡, 2018.6.16-17.
- 四井美月, Liang Kuo-Ching, 廣原茉那, 北沢桃子, 吉村道孝, 江口洋子, 藤田卓仙, 岸本泰士郎, 榊原康文. 音声データを用いたうつ病重症度の深層学習解析. 第32回人工知能学会全国大会, 鹿児島, 2018.6.5-8.
- 吉村道孝, 北村真吾, 三島和夫. 日中の光曝露が概日リズムに与える影響. 第33回不眠研究発表会, 東京, 2017.12.2.
- 北沢桃子, 吉村道孝, Lian Kuo-Ching, 三村將, 坪田一男, 岸本泰士郎. 画像解析による瞬目検出と気分症状の関連. 第24回日本未病システム学会, 横浜, 2017.11.4-5.
- 吉村道孝, 北村真吾, 肥田昌子, 勝沼るり, 元村祐貴, 綾部直子, 衛藤憲人, 西脇祐司, 坪田一男, 三島和夫. 概日リズムへ影響する日常生活光の特性. 第24回日本未病システム学会, 横浜, 2017.11.4-5.
- 吉村道孝, 北村真吾, 肥田昌子, 勝沼るり, 元村祐貴, 綾部直子, 衛藤憲人, 西脇祐司, 坪田一男, 三島和夫. 新型分光放射照度センサーを使用した身体装着部位と光曝露の関連. 第42回日本睡眠学会, 横浜, 2017.6.29-30.
- 貝瀬有里子, 仙頭綾子, 市丸佳世, 吉村道孝, 北沢桃子, Kuo-Ching Liang, 三村將, 岸本泰士郎. 画像センシング技術を用いた表情推定における妥当性の検証.
- 吉村道孝, 元村祐貴, 勝沼るり, 北沢桃子, 岸本泰士郎, 坪田一男, 三島和夫. 部分断眠における表情への影響. 第23回日本行動医学会, 沖縄, 2017.3.17-18.
- 北沢桃子, 吉村道孝, 仙頭綾子, 貝瀬有里子, 市丸佳世, Kuo-Ching Liang, 三村將, 坪田一男, 岸本泰士郎. 画像センシング技術を用いた瞬目検出における妥当性の検討-EOG 法および VTR 法との比較-. 第23回日本行動医学会, 沖縄, 2017.3.17-18.
- 村田まゆ, 北沢桃子, 吉村道孝. スマートフォンの使用が瞬目に与える影響. 第23回未病システム

学会，福岡，2016.11.5-6.

- 元村祐貴，勝沼るり，板坂典朗，吉村道孝，三島和夫．睡眠負債時における安静時気分の低下とその神経基盤：fMRI 研究．第 41 回日本睡眠学会，東京，2016.7.7-8.
- 吉村道孝，元村佑貴，板坂典郎，勝沼るり，坪田一男，三島一男．短時間睡眠が健常者の身体バランスに与える影響．第 41 回日本睡眠学会，東京，2016.7.7-8.
- 岸本泰士郎，吉村道孝，北沢桃子．行動学的・生理学的モニタリングによる客観的うつ病・躁うつ病精神症状の評価，第 48 回精神薬療研究報告会，大阪，2015.12.4.
- 北沢桃子，吉村道孝，岸本泰士郎，三村將，坪田一男．大学生における Twitter 利用と幸福感の関連．第 4 回ポジティブサイコロジー医学会，東京．2015.11.28.
- 吉村道孝，北沢桃子，岸本泰士郎，三村將，坪田一男．大学生におけるインターネット依存と幸福感の関連．第 4 回ポジティブサイコロジー医学会，東京，2015.11.28.
- 岸本泰士郎，吉村道孝，北沢桃子，榊原康文，江口洋子，藤田卓仙，三村將．表情・音声・日常生活活動の定量化から精神症状の客観的評価をリアルタイムで届けるデバイスの開発， 第 1 回 日本医療情報学会「医用知能情報学研究会」人工知能学会「医用人工知能研究会」(SIG-AIMED)合同研究会，東京，2015.9.29.
- 村田まゆ，北沢桃子，吉村道孝，佐藤友香，一言英文，岸本泰士郎．インターネット依存と Twitter フォロー数の関連:大学生を対象としたインターネット依存スタディ 2.第 22 回未病システム学会，北海道，2015.10.11-12.
- 吉村道孝，北沢桃子，岸本泰士郎，村田まゆ，佐藤友香，一言英文，三村將，坪田一男．インターネット依存と精神症状の関連：大学生を対象としたインターネット依存スタディ 1．第 22 回未病システム学会，北海道，2015.10.11-12.
- 岸本泰士郎，吉村道孝，北沢桃子，榊原康文，江口洋子，藤田卓仙，三村將．表情・音声・日常生活活動の定量化から精神症状の客観的評価をリアルタイムで届けるデバイスの開発．第 1 回日本医療情報学会　医用知能情報学研究会　人工知能学会　医用人工知能研究会合同研究会，東京，2015.9.29.
- 綾木雅彦，服部淳彦，吉村道孝，北沢桃子，根岸一乃，坪田一男．就寝前のスマートフォン、タブレットコンピュータ使用時のブルーライト遮光眼鏡と睡眠．第 40 回日本睡眠学会， 栃木，2015.7.2-3.
- 吉村道孝，北沢桃子，岸本泰士郎，村田まゆ，一言英文，佐藤友香，三村將，坪田一男．インターネット依存は睡眠障害と関連する：大学生を対象とした質問紙調査．第 40 回日本睡眠学会，栃木，2015.7.2-3.
- 北沢桃子，吉村道孝，川島素子，井上佐智子，坪田一男．非侵襲的眼鏡型センサーを用いた瞬目の評価．第 33 回日本生理心理学会，大阪，2015.5.23-24.
- 綾木雅彦，服部淳彦，吉村道孝，北沢桃子，根岸一乃，坪田一男．就寝前のモバイル端末使用時のブルーライト遮光眼鏡と睡眠．第 120 回日本眼科学会，仙台，2015.4.7-10.

（学会発表）シンポジウム（国内招待発表）

- 吉村道孝．ロボットは人を癒せるのか？ヒトとロボットのメンタルヘルスの効果を探る． 第 29 回日本未病学会学術総会，千葉，2022 年 11 月 12 日-13 日.
- 吉村道孝．大学教育改革フォーラム in 東海 2022　学生支援分科会「発達障害傾向のある学生への睡眠・覚醒リズム支援」2022 年 3 月 5 日.
- 吉村道孝．労働者の睡眠の質を向上．AI for social good，Google inc．東京．2018.12.8.
- 吉村道孝．メンタルヘルスから見た未病指導の可能性．第 25 回日本未病システム学会学術総会，

2018.10.27-28.

- 吉村道孝. 人工知能を用いた転倒・転落やうつを含む精神疾患の検知および医療ドキュメントの解析について. ME-BYO Japan 2015, 2015.10.14-16.

（学会発表）（国際学会）

- Shiga K, Izumi K, Minato K, Sugio T, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Kurokawa S, Momota Y, Sado M, Maeno T, Takebayashi T, Mimura M, KIshimoto T. Subjective Well-being and the LF/HF ratio among deskworkers. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- Kitazawa M, Yoshimura M, Shiga K, Nagata T, Hanashiro S, Fujita T. Japanese National Survey on Subjective Health during COVID-19. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- Yoshimura M, Shiga K, Kitazawa M, Hanashiro S, Nagata T, Fujita T. Nationwide survey of COVID-19 vaccination factors in Japan. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- Katsunuma R, Motomura Y, Yoshimura M, Moriguchi Y, Mishima K. Neural Associations of Moral Judgments Affected by Sleep Deprivation. Neuroscience and Society 2019, Melbourne, December 3-4, 2019.
- Tazawa Y, Liang KC, Yoshimura M, Kitazawa M, Kaise Y, Takamiya A, Kishi A, Mitsykura Y, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating Depression With Multimodal Wristband-Type Wearable Device: Accuracy of Assessing Patient Severity and Screening Based on Machine Learning. SOBP’s 74th Annual Scientific Conference, Chicago, May 16-18, 2019.
- Kishimoto T, Liang KC, Fujita T, Kitazawa M, Yoshimura M, Eguchi Y, Tazawa Y, Horigome T, Takamiya A, Mimura M. Project for Objective Measures Utilizing Computational Psychiatry Technology (PROMPT): The Prospect of New Approaches in Psychiatry in Japan. WFSBP 2018 KOBE, Kobe, Sep 8, 2018.
- Yoshimura M, Kitamura S, Eto N, Hida A, Katsunuma R, Ayabe N, Motomura Y, Nishiwaki Y, Negishi K, Tsubota K, Mishima K. Relationship between Indoor Daytime Light Exposure and Circadian Phase Response under Laboratory Free-Living Conditions. Asian Forum on Chronobiology in 2018, Sapporo, July 11-13, 2018.
- Kitazawa M, Yoshimura M, Liang KC, Wada S, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Differences of Sleep in Healthy Subjects and Patients with Mood Disorders in Remission. The 9th Congress of Asian Sleep Research Society (ASRS). Sapporo, July 11-13, 2018.
- Yoshimura M, Motomura Y, Katsunuma R, Tsubota K, Mishima K. The effect of sleep deprivation on body balance of healthy subjects. The 9th Congress of Asian Sleep Research Society (ASRS). Sapporo, July 11-13, 2018.

（特許）

- 発明等の名称：疾患予測装置、予測モデル生成装置および疾患予測用プログラム 出願人：東京都港区（899000079）学校法人慶應義塾 発明者：岸本泰士郎、梁國經、吉村道孝、北沢桃子、藤田卓仙、三村將 出願記事：特願 2019-212031（2019/11/25）
- うつ状態を推定する装置、方法及びそのためのプログラム 出願人：東京都港区（899000079）学校法人慶應義塾 発明者：岸本泰士郎，田澤雄基，梁國經，藤田卓仙，吉村道孝，北沢桃子，三村將 出願番号：特願 2018-234966(2018/12/14) 国際出願番号：PCT/JP2019/48904(2019/12/13)

（その他）

・　吉村道孝，花城清香，北沢桃子，越川陽介，藤田卓仙．新型コロナワクチンコミュニケーションハンドブック日本語翻訳版の作成（ブリストル大学と共同）．2021

（メディア）

・　吉村道孝.テレビ番組監修.日本人の3割しか知らないこと くりぃむしちゅーのハナタカ!優越館. 2020.08.13

・　眠りとスマホの適切な距離：快眠の大敵「スマホ」を手放せない時は？ Fuminners．2016年10月

・　気づかぬうちに平衡感覚に異変…！？ 短時間睡眠の悪影響．Fiminners．2016年10月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

・　令和２年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）．若手研究.「VRを使ったフラッシュ光照射による睡眠―覚醒リズムの改善効果」．令和2年度～令和5年度．研究代表者　吉村道孝.

○所属学会

日本心理臨床学会，日本睡眠学会，日本未病学会，日本生理心理学会，日本生理人類学会，日本心理学会，日本行動医学会，日本うつ病学会，日本公認心理師協会，日本公衆衛生学会

○自己評価

感染対策上、人を対象とした睡眠実験は実施が困難であった。一方、新型コロナウイルス感染症に関する研究をおこない、公衆衛生に資する結果を複数発表することができ、研究活動に対する目標は概ね達成できた。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

大学行事、人間健康学部や入試委員会、教務委員会へ貢献できるように責務を果たす。

（計画）

大学行事、人間健康学部や入試委員会、教務委員会の行動指針、活動内容を把握し、積極的に参加する。特に公認心理師カリキュラムの適正化や学生へのメンタルヘルスについて専門性を生かして貢献する。

○学内委員等

入試委員会、教務委員会

○自己評価

それぞれの委員会にて、委員として貢献することができた。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

睡眠医療・心理学実践を社会に還元する。

（計画）

睡眠衛生・精神疾患、新型コロナウイルス感染症の支援に対する普及活動を積極的におこなう。学外機関等からの講演要請に応える。学会活動の一環として専門家向け、一般向けの研修会に積極的にコミットする。

○学会活動等

日本未病学会評議員，日本未病学会メンタルヘルス部会　副代表

○地域連携・社会貢献等

- 公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団「学童期から思春期の健康づくり・生活習慣病予防研修」研修動画の提供　配信期間 2022 年 11 月 18 日～12 月 23 日
- 高知市立小高坂小学校　睡眠教育講演，2022.6.18.
- 岩倉市立岩倉北小学校　睡眠教育講演，2021.11.24.
- 尾張旭市立瑞鳳小学校　睡眠教育講演，2021.10.28.
- 田原市赤羽根小学校　睡眠教育講演，2021.3.11.

○自己評価

感染症対策で市民に対しての講演会等が複数キャンセルになるなどの影響があった。その中でも睡眠衛生やメンタルヘルスに関する講演を実施することができた。また学会活動の中で、インターネットを用いた勉強会を定期的に開催することができた。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- 2022 年 11 月　第 29 回日本未病学会　優秀演題賞（吉村道孝，越川陽介，江口洋子，北沢桃子，花城清香，村田まゆ，志賀希子，藤田卓仙）
- 2018 年 6 月　第 77 回生理人類学会　優秀発表賞（吉村道孝，元村祐貴，勝沼るり，北村真吾，北沢桃子，岸本泰士郎，三村將，坪田一男，三島和夫）
- 2017 年 9 月　第 24 回日本未病学会　優秀演題賞（吉村道孝，北村真吾，肥田昌子，勝沼るり，元村祐貴，綾部直子，衛藤憲人，西脇祐司，坪田一男，三島和夫）

Ⅵ　総括

2022 年度も感染症が収束せず、講義形態や学生との接触において制限が多かった。その中でもインターネットを駆使し、関係性を構築・維持できた。研究では、新型コロナウイルス感染症に関する研究成果を、多くの学会で発表できた。また専門である睡眠に関する研究についても学外の共同研究者と複数実施することができた。今後感染症対策も緩和することから教育・研究ともに発展させ、今後の教育と研究成果の充実に努めたい。

以　上